

i-check のデータでみる 子どもたちの現状 2



■i-check とは	・・・p.1
視点 1. 対話・話し合いの力	・・・p.2
視点 2. 自己肯定感と学力	・・・p.5
視点 3. いじめの状況	・・・p.8
■おわりに	・・・p.12
■分析に使用したデータ	

■ i-check とは

(1) i-check のねがい

i-check とは、学級の状況を知り、子どもの個性や心のあり様を理解するための、総合質問紙調査です。生活習慣や学習習慣だけでなく、自己肯定感やソーシャルスキル、周囲からのささえ、学級の絆など、さまざまなカテゴリーを設けています。i-check の結果を、学級経営、子ども理解、子どもたちのやる気づくり等に役立てていただきたいという願いを持って設計しています。

(2) i-check の設計

i-check は現在、「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」の4つの大きいカテゴリーで構成されています。下位カテゴリーとして、以下の表のとおりに設計しています。

第1カテゴリー	第2カテゴリー	第3カテゴリー
自己認識	愛されていますか	家族のささえ
		友だちのささえ
		先生のささえ
	自己肯定感	成功体験と自信
		充実感と向上心
		感動体験
他者からの評価		
社会性	ソーシャルスキル	規範意識
		思いを伝える力
		問題解決力
	社会参画	社会参画
学級環境	学級風土	学級の規範意識
		学級の絆
	リスク管理	いじめのサイン
		対人ストレス
生活・学習習慣	生活習慣	生活習慣
	学習習慣	学習習慣

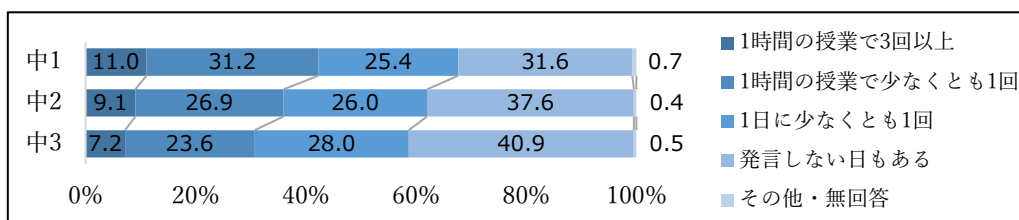
視点1 対話・話し合いの力

※使用データ：H30-1 学期標準学力調査【全面改訂版】と「i-check」を同時受検した中学1年生～3年生の集計値（「学級の絆」層別は2年生のみ）

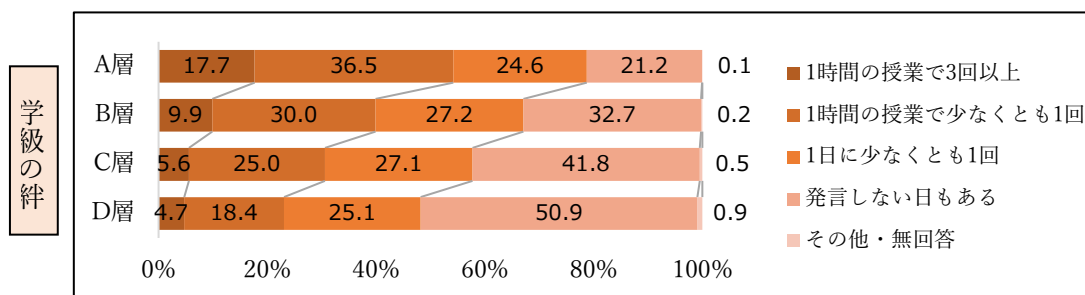
※「学級の絆」4層：「i-check」内の「学級の絆」カテゴリーの標準スコアの分布をもとに、全体を25%、50%、75%で区切り、スコアの高い方からA～D層とした。

○あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。(46)

◆回答構成比（中1～中3）



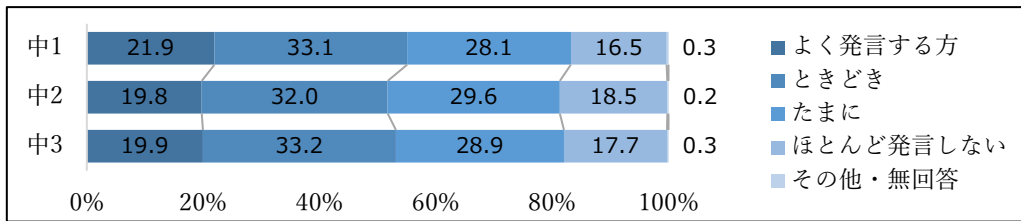
◆「学級の絆」層別回答構成比（中2）



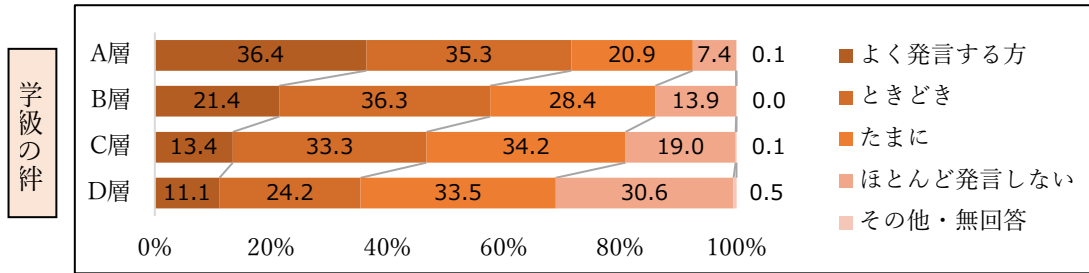
- ・授業での発言回数について、1日に1回以上発言している生徒の割合は学年を追うにつれて低下し、3年生では40.9%の生徒が「発言しない日もある」と回答している。
- ・2年生の回答構成比を「学級の絆」層別に見ると、「学級の絆」の標準スコアが高い層ほど、肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。※1年生，3年生も同傾向

○クラスや友だちの間で、話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか。(41)

◆回答構成比 (中1～中3)



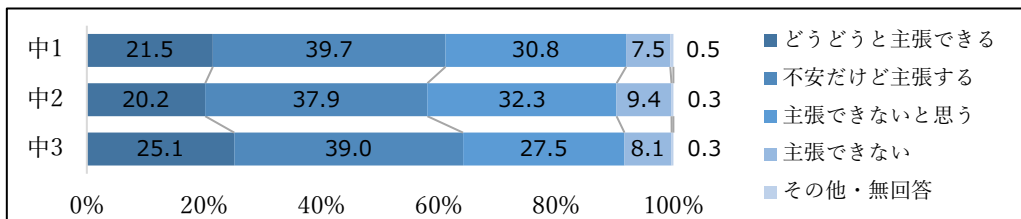
◆「学級の絆」層別回答構成比 (中2)



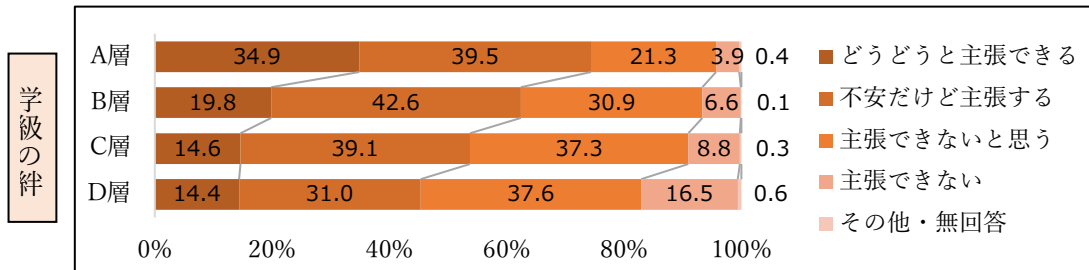
- ・話し合いで自分の意見を「よく発言する方」「ときどき」と肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が55%で最も高い。全学年において、約2割の生徒は「ほとんど発言しない」と回答している。
- ・2年生の回答構成比を「学級の絆」層別に見ると、「学級の絆」の標準スコアが高い層ほど、肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。※1年生、3年生も同傾向

○クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。(42)

◆回答構成比 (中1～中3)



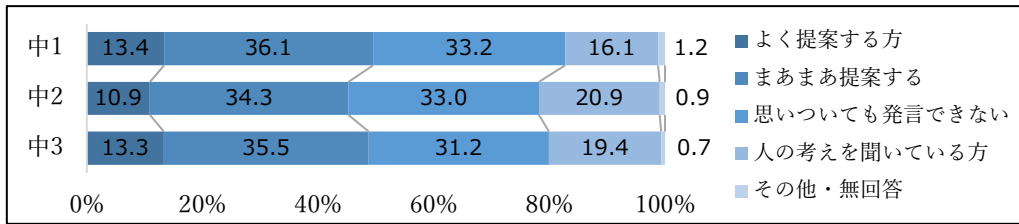
◆「学級の絆」層別回答構成比 (中2)



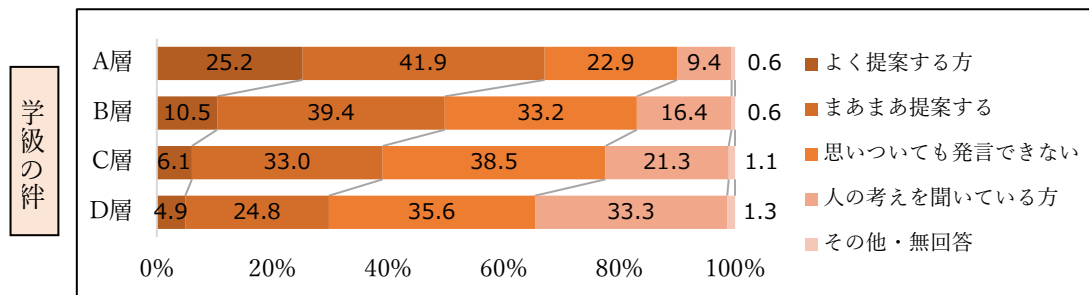
- ・周囲と異なる意見でも「どうどうと主張する」「不安だけど主張する」と肯定的に回答した生徒の割合は、3年生が64.1%と最も高く、全学年において、半数以上の生徒が肯定的に回答している。
- ・2年生の回答構成比を「学級の絆」層別に見ると、「学級の絆」の標準スコアが高い層ほど、肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。※1年生、3年生も同傾向

○クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できる方法を考えて、提案する方ですか。(30)

◆回答構成比 (中1～中3)



◆「学級の絆」層別回答構成比 (中2)



- ・意見が合わなかったときにみんなが納得できる方法を考え、「よく提案する」「まあまあ提案する」と肯定的に回答した生徒の割合は、最も高い1年生で49.5%であり、全学年において、肯定的に回答した生徒の割合は全体の半数を下回っている。
- ・2年生の回答構成比を「学級の絆」層別に見ると、「学級の絆」の標準スコアが高い層ほど、肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。※1年生, 3年生も同傾向

- ・学校生活での発言の頻度について、1年生から3年生にかけて減少していることが分かる。
 - ・「自分の意見を主張すること」についての肯定的な回答の割合は学年によって約58～64%、「みんなが納得できる提案をすること」についての肯定的な回答の割合は学年によって約45～50%である。生徒にとって、個人的な意見を主張することよりも、みんなが納得できるような提案をすることの方が、より難しいという認識があることが分かる。
 - ・2年生の「学級の絆」層別回答構成比では、全ての項目において、「学級の絆」の標準スコアが高いほど肯定的な回答の割合も高い傾向が見られる。
- 子どもたちは、現状、自分の意見を考えることや、話し合ったり発表したりする活動や授業の形式に慣れていないのではないかと考えられる。新学習指導要領の求める「主体的・対話的で深い学び」をかなえるには、話し合いを促すような働きかけが重要になるのではないかと。
- 特に中学生においては、「他者からどう思われるか」が非常に気になる時期であるために、自分の意見を発信することに抵抗感を抱く傾向があるのではないかと考えられる。「学級の絆」スコアの高低と対話・話し合いに関する質問の関連から分かるように、学級内の人間関係が豊かである(安心できる・自分の居場所である)と感じられることが、生徒同士での議論の活発化や、授業への意欲的な参加に繋がっているのではないかと。

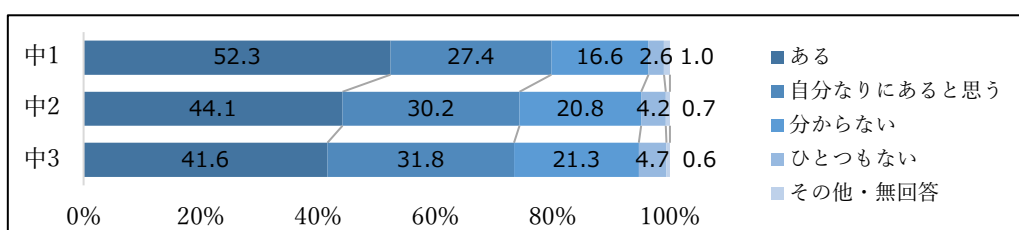
視点2 自己肯定感と学力

※使用データ：H30-1 学期標準学力調査【全面改訂版】と「i-check」を同時受検した中学1年生～3年生の集計値（学力層別は2年生のみ）

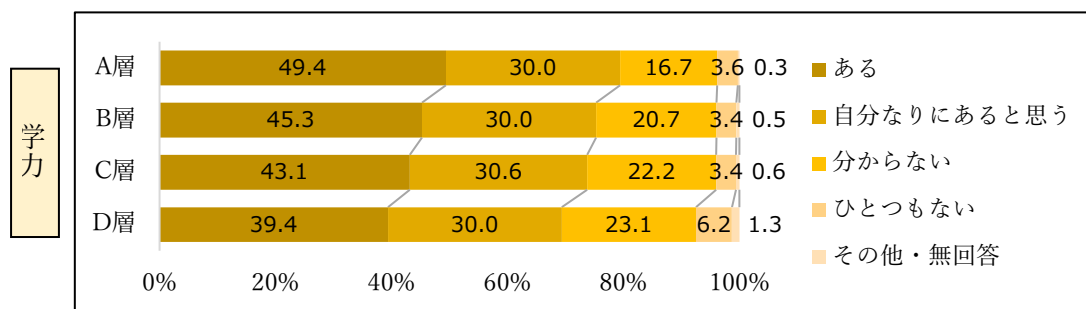
※学力4層：標準学力調査（数学）の教科全体正答率をもとに、全体を25%、50%、75%で区切り、スコアの高い方からA～D層とした。

○勉強や運動、クラブ、習い事、しゅみなどで、自分なりに自信をもっていることがありますか。(19)

◆全体回答構成比（中1～中3）



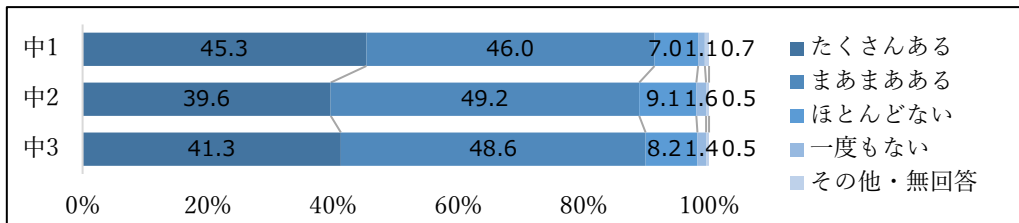
◆学力層別回答構成比（中2 数学）



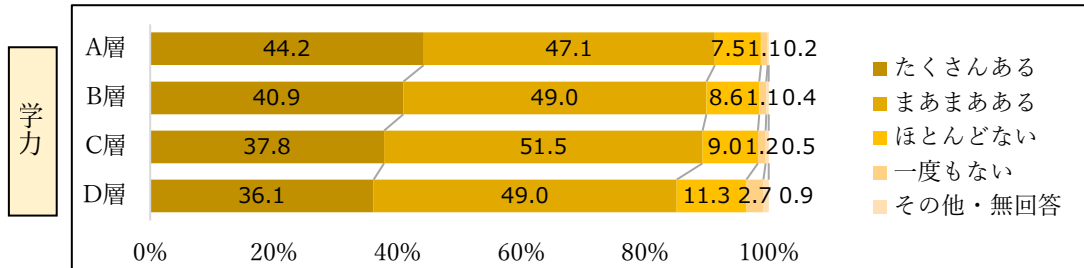
- ・全学年において、肯定的な回答の割合は約73～80%であり、学年を追うにつれてその割合は低下している。
- ・2年生の回答構成比を学力層別に見ると、教科学力の高い層ほど肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。

○自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。(13)

◆全体回答構成比 (中1～中3)



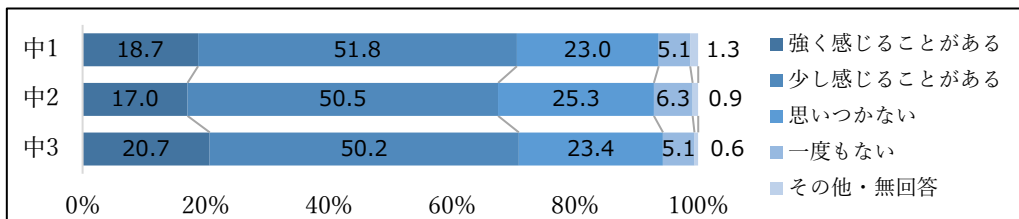
◆学力層別回答構成比 (中2 数学)



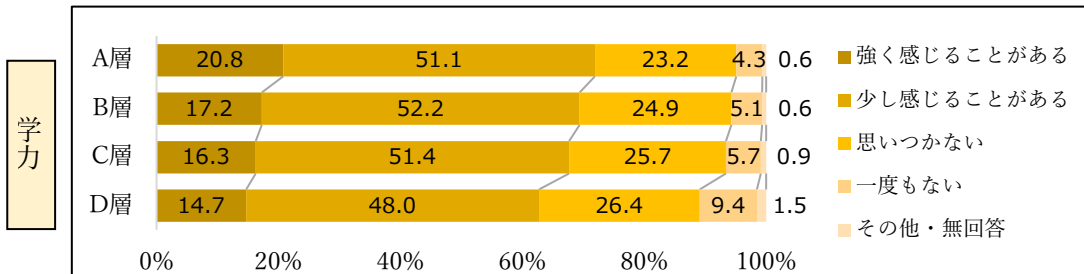
- ・全学年において、肯定的な回答の割合は90%前後であり、2年生でやや落ち込むものの、学年による差はほとんど見られない。
- ・2年生の回答構成比を学力層別に見ると、教科学力の高い層ほど肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。

○学校での日々の授業や活動の中で、自分は人間として成長したな、少し大人になれたなと、感じることはありませんか。(91)

◆全体回答構成比 (中1～中3)



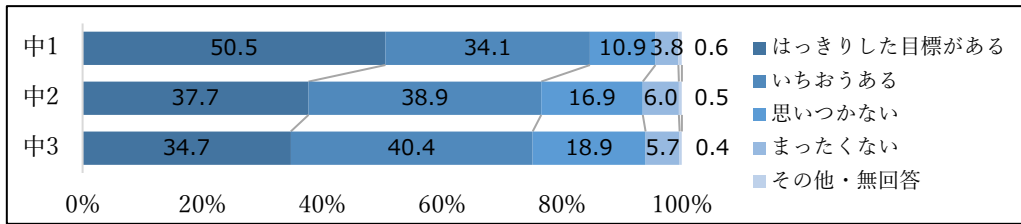
◆学力層別回答構成比 (中2 数学)



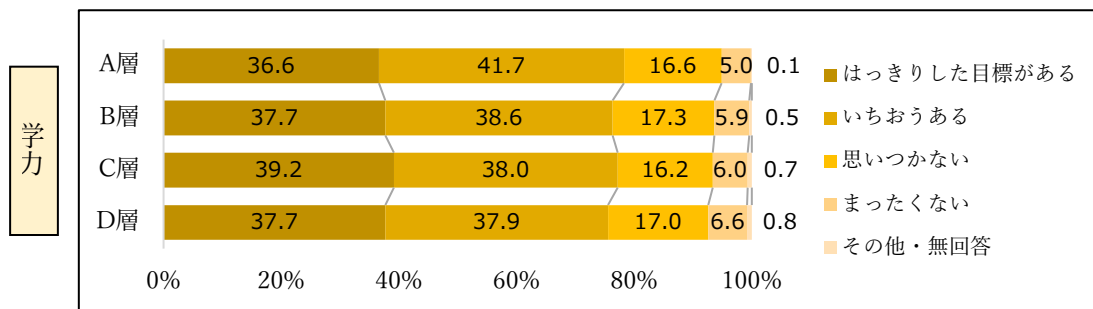
- ・全学年において、肯定的な回答の割合は70%前後であり、2年生でやや落ち込むものの、3年生で再び上昇している。
- ・2年生の回答構成比を学力層別に見ると、教科学力の高い層ほど肯定的に回答した生徒の割合が高いことが分かる。

○将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか。(12)

◆全体回答構成比 (中1～中3)



◆学力層別回答構成比 (中2 数学)



- ・全学年において、肯定的な回答の割合は約75～85%であり、学年を追うにつれてその割合は低下している。
- ・2年生の回答構成比を学力層別に見ると、「はっきりした目標がある」と回答した生徒の割合が最も高いのはC層であり、「いちおうある」も含めた肯定的な回答の割合が最も高かったのはA層であるものの、学力による差はほとんど見られない。「まったくない」と回答した生徒の割合は、教科学力の高い層ほど低くなっている。

- ・自信を持っていることや、将来の夢や目標についての項目で、1年生から3年生にかけて肯定的な回答の割合が低下している。成長するにつれて自他を客観的に見るようになっていたり、より現実を見つめるようになっていたりしている様子が見える。
- ・成功体験や成長実感については、1年生から2年生にかけて肯定的な回答の割合が低下するものの、3年生で再び上昇している。最高学年として下級生を率いる場面などが多いことが反映されているのではないかと考えられる。
- ・2年生の学力層別回答構成比では、自信や感動体験、成長実感などの自己評価に関する項目について、教科学力が高いほど肯定的な回答の割合も高い傾向が見られる。将来の夢や目標については学力による差はほとんどなく、全ての層において、75%以上は夢や目標を持っていることが分かる。

→子どもたちの自己評価は学力と関連している可能性がある。学力を伸ばすことが自己肯定感を高めることにつながるとも言えるが、同時に、学力の高さにかかわらず、様々な価値観や場面で「認められた」と実感できるようにすることも大切なのではないか。

視点3 いじめの状況

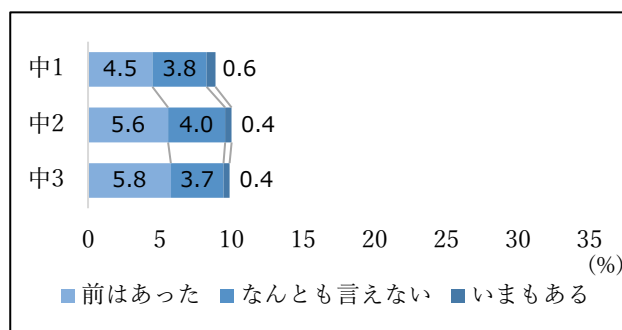
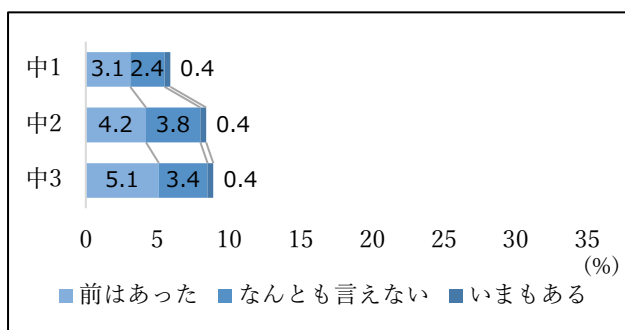
※使用データ：「i-check」の2018年度最終値および2016年度最終値（中学1年生～3年生）

(1) SNS 上のいじめ

◆中1～中3の回答率の平均（2016年度と2018年度の比較）

		2016年度	2018年度	
59	LINEやツイッター上で仲間はずれにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。	1 一度もない	91.9	89.6
		2 前はあった	4.1	5.2
		3 なんとも言えない	3.2	3.8
		4 いまもある	0.4	0.5
		2-4合計	7.7	9.5

◆回答構成比（2016年度と2018年度の比較）



- ・2018年度において、中学生の約10%がSNS上でのいじめを経験している可能性がある。
- ・2018年度において、SNS上でのいじめを経験しているという回答の割合は、2016年度を1.8ポイント上回っている。

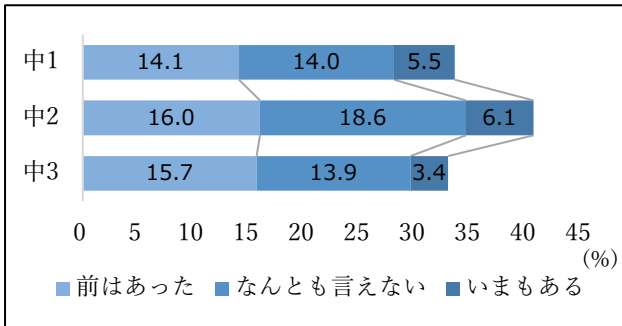
(2) 初期のいじめ

◆中1～中3の回答率の平均（2016年度と2018年度の比較）

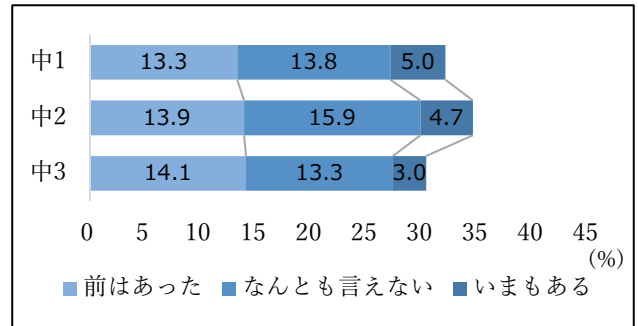
		2016年度	2018年度	
57	クラスや部活で、冷やかされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがありますか。	1 一度もない	63.8	66.7
		2 前はあった	15.3	13.7
		3 なんとも言えない	15.5	14.5
		4 いまもある	5.0	4.4
		2~4合計	35.8	32.6

◆回答構成比（2016年度と2018年度の比較）

2016年度



2018年度

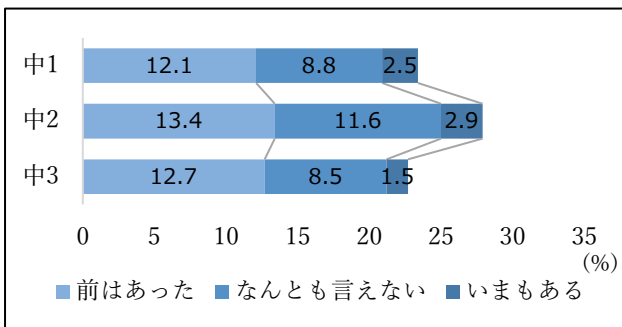


◆中1～中3の回答率の平均（2016年度と2018年度の比較）

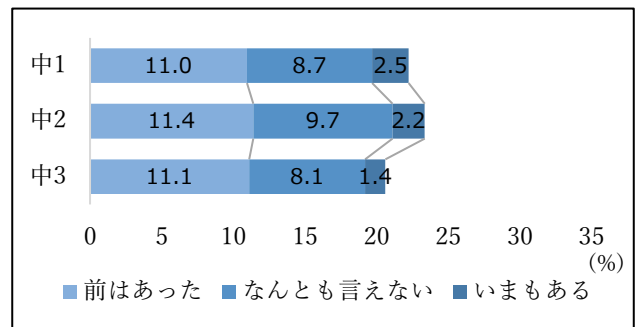
		2016年度	2018年度	
58	クラスや部活で、無視されたり、かげで悪口を言われたり、物をかくす・よごすなどの、いやがらせを受けたりすることがありますか。	1 一度もない	75.0	76.9
		2 前はあった	12.7	11.2
		3 なんとも言えない	9.6	8.9
		4 いまもある	2.3	2.2
		2~4合計	24.6	22.3

◆回答構成比（2016年度と2018年度の比較）

2016年度



2018年度



- ・2018年度において、中学生の約22～33%が初期のいじめ（からかい／悪口・無視等）を経験している可能性がある。
- ・2016年度と比較すると、初期のいじめ（からかい／悪口・無視等）を経験しているという回答の割合はやや低下している。

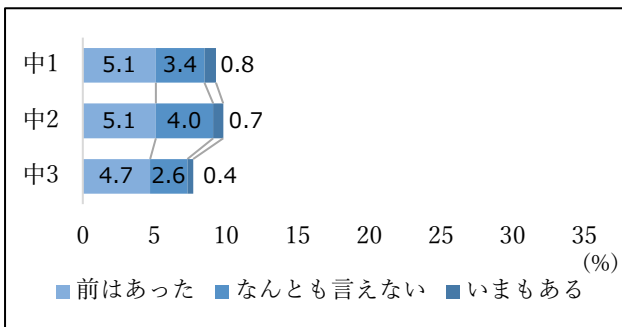
(3) 深刻ないじめ

◆中1～中3の回答率の平均（2016年度と2018年度の比較）

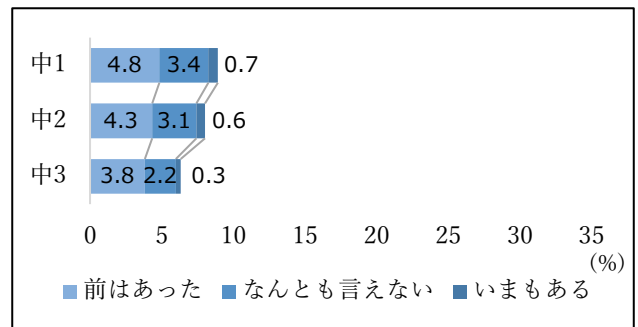
		2016年度	2018年度	
64	同級生や上級生，他校の人などから，いやなことを無理やりさせられたり，ひどいらんぼうを受けたりすることがありますか。	1 一度もない	90.8	91.2
		2 前はあった	5.0	4.4
		3 なんとも言えない	3.3	3.0
		4 いまもある	0.6	0.6
		2~4合計	8.9	8.0

◆回答構成比（2016年度と2018年度の比較）

2016年度



2018年度

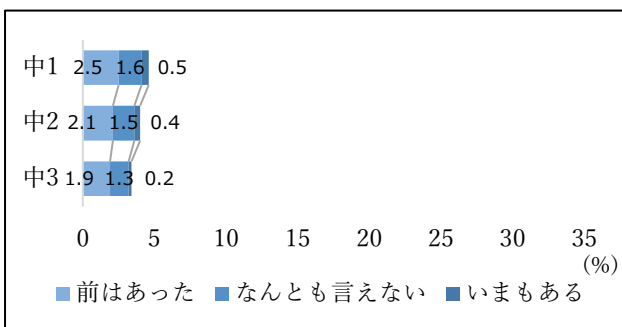


◆中1～中3の回答率の平均（2016年度と2018年度の比較）

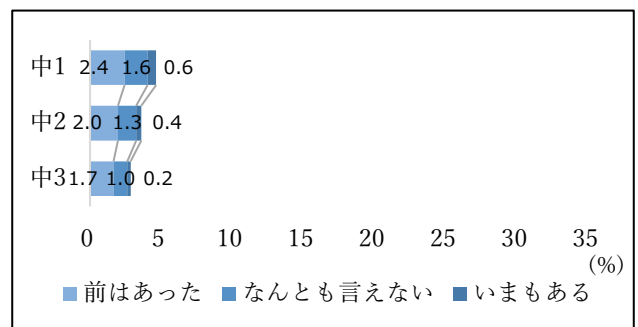
		2016年度	2018年度	
65	同級生や上級生，他校の人などから，お金や物を持って来るように言われることがありますか。	1 一度もない	95.4	95.1
		2 前はあった	2.2	2.1
		3 なんとも言えない	1.4	1.3
		4 いまもある	0.4	0.4
		2~4合計	4.0	3.8

◆回答構成比（2016年度と2018年度の比較）

2016年度



2018年度



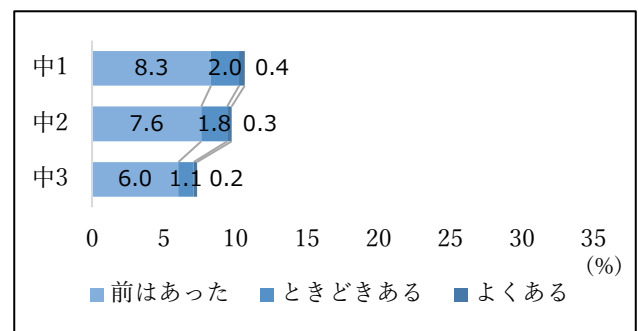
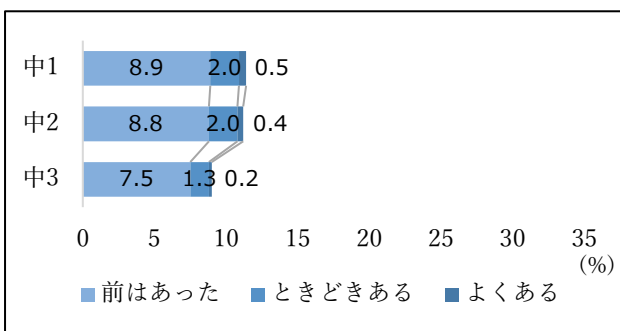
- ・2018年度において，中学生の約4～8%が深刻ないじめ（暴力等／物品・金銭の要求）を経験している可能性がある。
- ・2016年度と比較すると，深刻ないじめ（暴力等／物品・金銭の要求）を経験しているという回答の割合はやや低下している。

(4) いじめのさそい

◆中1～中3の回答率の平均（2016年度と2018年度の比較）

		2016年度	2018年度	
62	クラスの友だちから、いじめのさそいを受けたことがありますか。（メールでのさそいもふくみます）	1 一度もない	89.1	89.9
		2 前はあった	8.4	7.5
		3 ときどきある	1.8	1.7
		4 よくある	0.4	0.3
		2~4合計	10.6	9.5

◆回答構成比（2016年度と2018年度の比較）



- ・2018年度において、中学生の9.5%がいじめのさそいを受けたことがある（「前はあった」「ときどきある」「よくある」）と回答している。
- ・2018年度において、いじめのさそいを受けたことがあると回答した生徒の割合は、2016年度を1.1ポイント下回っている。

- ・初期のいじめについて、悪口・無視等で20%以上、からかい等で30%以上の中学生が経験している可能性がある。40人学級に換算すると約9～13人で、少なくない数値である。
 - ・全体として、2018年度は2016年度と比べると、いじめのさそいや、いじめを受けている可能性のある生徒はわずかながら減少していることがうかがえるが、SNS上のいじめについては2016年度から上昇している。スマートフォンの普及拡大により中学生のSNS利用は年々増加していると考えられ、必然的にそれに関連したトラブルも増えていることが推測される。
- ネットリテラシーを高めるとともに、SNSを使うにあたってのルールやマナーについて、学級等で考える時間を設ける必要があるのではないかな。

■おわりに

i-check のデータから、今の中学生たちがどのような状況にあるのか、自分のことをどのように捉えているのか、その一部を垣間見ることができました。教室内の雰囲気がよくなると、子どもたちはより自信を持って、伸び伸びと学校生活を送ったり、積極的に授業に参加したりできるようになるのかもしれませんが。本資料を、子どもたちの現状に寄り添い、彼らが自分たちの力で学んでいけるような学級経営や授業について、改めて考えていただくきっかけにしていいただければ幸いです。

■分析に使用したデータ

- ・ H30-1 学期標準学力調査【全面改訂版】と「i-check」を同時受検した中学 1 年生～3 年生の集計値（約 37,000 人。うち 2 年生は約 16,000 人）
- ・ 総合質問紙調査「i-check」の 2018 年度最終べ値（中学 1 年生～3 年生。学年により約 3～5 万人）
- ・ 総合質問紙調査「i-check」の 2016 年度最終べ値（中学 1 年生～3 年生。学年により約 2～5 万人）

※「その他・無回答」を省略しているために、回答率の合計が 100%にならないことがあります。

※質問文の後ろに、i-check 冊子での質問番号を()で示しています。

※視点 1 における「学級の絆」カテゴリーは、「あなたのクラスは盛り上がりつつ団結しますか」「今のクラスが好きですか」などといった、学級に対して肯定的な気持ちを持っているかどうかについてたずねる質問で構成されているカテゴリーです。